

小学校第4学年音楽科学習指導案

指導者 渡辺 景子

1 題材名 いろいろな打楽器の音を組み合わせせて演奏しよう

2 題材の目標

互いの打楽器の音色の特徴を感じ取って聴き合いながら、音の組み合わせを工夫して演奏する。

3 題材設定の意図

(1) 題材観

本題材では、音楽を特徴づけている要素の音色に焦点を当て、音を出す素材を発見したり音の出し方を工夫したりする活動から、イメージに合った音の組み合わせや奏法を工夫していく活動へと展開する。この活動を通して、題材の目標で設定した演奏する力を育てたいと考える。

(2) 児童の実態(28人)

音楽についてのアンケート結果は次のとおりである。

音楽は好きか。	はい 25		
理由(複数回答)		歌が好き 9	リコーダーが好き 9 合奏が楽しい 6
			曲に合わせて踊るのが楽しい 3 その他 5
	いいえ 3	歌が嫌い 1	発表が嫌い 1 音符が読めない 1
音楽で楽しいことは何か(複数回答)			
歌唱	みんなで歌う 24	歌に合わせて踊る 2	知らなかった歌を知ること 2
器楽	合奏 23	リコーダー演奏 3	グループ発表会 1
		グループ活動で意見を出し合って工夫する 1	
音楽づくり	リズムづくり 14	自分で作った楽器を鳴らす 5	
		自分のふしを友達のふしと合わせる 5	

アンケートによると、ほぼ全員が音楽が好きと答えており、理由には、みんなで歌ったり楽器を演奏したりするのが楽しいと挙げている。器楽の活動においては、合奏曲を演奏することで、音を合わせて演奏することの楽しさを味わっている児童が多いものの、グループで互いの楽器の音を聴き合ったり、意見を出し合って表現を工夫する活動に対する満足度には課題がある。

(3) 指導観

指導に当たっては、楽器の扱いや基本的な奏法を指導した上で、「音あつめ」で同じ楽器を演奏するときに、いろいろなたたき方をしたり、様々な材質のばちを用いたりする活動を十分に行う。併せて、一つの楽器でも違う響きができることや、材質の違いによって音の特徴や雰囲気異なったりすることに気づかせる。また、身の回りの物からもおもしろい音を見つけて即興的に音を表現させ、様々な音の響きを楽しませたい。それらの活動を生かして、「音のカーニバル」では、「の音」のイメージに合う音の組み合わせを考え、イメージに近づけるためにどのような奏法にしたのかなど、自分の思いや意図を言葉で表す言語活動を行い、友達と試行錯誤しながら音楽づくりをさせていく。その際、イメージや音色の違いを言葉で表す手助けとなるよう、普段の授業から音楽ポケットを活用し、音楽に関する語彙を増やしていく。

友達と音の順番や鳴らし方を考え、試していく中で、互いの音色を聴き取り感じ取ったことを基にして、互いの音を組み合わせせて工夫(思考・判断)する学習を展開することで、本題材のねらいに迫りたい。

4 教材について

- ・音あつめ
- ・「音のカーニバル」芙蓉明子作詞 橋本祥路作曲

5 題材の評価規準及び学習活動における具体的評価規準

	ア音楽への関心・意欲・態度	イ音楽的な感受や表現の工夫	ウ表現の技能
歌唱			
器楽			
音楽づくり			

鑑賞 題材の 評価規準	互いの打楽器の音色の特徴を感じ取って聴き合いながら、音の組み合わせを工夫して演奏する学習に進んで取り組もうとしている。	互いの打楽器の音色の特徴を感じ取って聴き合いながら、イメージに合った音の組み合わせや奏法を工夫し、どのような演奏をするかについて、自分の考えや願い、意図をもっている。	互いの打楽器の音色の特徴を感じ取って聴き合いながら、イメージに合った音の組み合わせや奏法を工夫して演奏している。
学習活動 における 具体の 評価規準	「音あつめ」の活動において、音色の特徴や違いに関心をもち、各楽器の打つ場所や打つもの、持ち方を工夫する学習に進んで取り組もうとしている。 「音のカーニバル」のグループ活動において、互いの打楽器の音色の特徴を感じ取って聴き合いながら、音の組み合わせや奏法を工夫して演奏する学習に進んで取り組もうとしている。	「音あつめ」の活動において、いろいろな打楽器の音色の違いやおもしろさなど、感じ取ったことをワークシートにまとめている。 「音のカーニバル」のグループ活動において、互いの打楽器の音色の特徴を感じ取って聴き合いながら、自分たちのイメージに合った奏法を工夫し、どのような演奏をするかについて、「音」として音や言葉を用いて伝えたり、ワークシートにまとめたりしている。	「音のカーニバル」のグループ活動において、拍の流れにのって四分音符と四分休符のリズムを打ち、自分の考えや願い、意図をもった音色を工夫して演奏している。 「音のカーニバル」の発表会において、互いの打楽器の音色の特徴を感じ取って聴き合いながら、イメージに合った音の組み合わせや奏法を工夫して演奏している。

6 学習活動と評価の計画（6時間扱い） 教 教材

次	ねらい	主な学習活動	〔共通事項〕	具体の評価規準				
第1次 (2)	いろいろな打楽器の音の特徴を聴き取り、感じ取る。	教「音あつめ」 いろいろな打楽器の音色を聴いて音色の特徴や違いを感じ取る。 打楽器や身の回りの楽器を叩き、楽器や物の材質、奏法によって音色が違ったり変化したりすることに気付く。 聴き取り、感じ取った音色に関して、ワークシートに次の項目で発表したり、まとめたりする。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr><td>音の特徴</td></tr> <tr><td>打つ場所</td></tr> <tr><td>打つ物</td></tr> <tr><td>持ち方</td></tr> </table>	音の特徴	打つ場所	打つ物	持ち方	音色	ア - イ -
音の特徴								
打つ場所								
打つ物								
持ち方								
第2次 (4) 本時は 第3時	互いの打楽器の音色の特徴を感じ取って聴き合いながら、音の組み合わせや奏法を工夫して演奏する。	教「音のカーニバル」 曲の気分や特徴を感じ取って聴く。 曲の気分を生かして歌ったり、曲に合わせてリズム打ちをしたりする。 第1次「音あつめ」で学習した音色についての知識を基にして、自分たちの表現したいイメージに合うように、打楽器の奏法及び組み合わせについて音で試しながら、表現を工夫する。 グループごとに「音のカーニバル」を発表し、互いに聴き合う。その際どのようなイメージのカーニバルにしたのか、そのためにどのような工夫をしたのかを伝え合う。 ワークシートに音の組み合わせを工夫して演奏したことに対する感想を書き、伝え合う。	音色 リズム 拍の流れ	ア - ウ - イ - ウ -				

7 本時の指導（第二次 第3時）

(1) ねらい

互いの打楽器の音色の特徴を感じ取って聴き合いながら、音の組み合わせを工夫し、どのような演奏をするのかについて、自分の考えや願い、意図をもつ。

(2) 準備・資料

タンバリン、トライアングル、すず、ウッドブロック、小太鼓、大太鼓、ボンゴ、シンバル、カスタネット、ビブラスラップ、アゴゴ、カウベル、手作り楽器、CDプレーヤー、音楽ポケット（掲示物）、活動手順カード、 の形の台、探検バッグ

(3) 展 開

学習活動と主な学習課題	教師の働きかけ（ 学習活動における具体的評価規準）
<p>1 学習の雰囲気をつくる。 ・「音のカーニバル」を歌う。</p> <p>2 本時の学習のめあてを確かめる。 音の鳴らし方や順番を考えて、イメージ合う「 の音のカーニバル」を作ろう</p> <p>3 グループで順番を考える。 (1) 「 の音」に合った音の出し方を前時のワークシートから選ぶ。 (2) 「 の音」に合った音の組み合わせを音で試しながら考える。 (3) 感じたことや思ったことをワークシートに記入する。 (当日の指導案には楽譜が入る。) (4)ワークシートを基に相談する。 (5)決まった順番で演奏練習をする。</p>	<p>旋律の休符のところは、ボディーパーカッションや身近な物を叩いて音を出して、四分音符と四分休符の組み合わせのリズムを打つ。</p> <p>前時で決めたグループごとのイメージを黒板に掲示しておく。 前時でお気に入りの音色が出る楽器から、「 の音」に合う楽器を選ばせ、どのような奏法や組み合わせで演奏すればイメージに合う演奏ができるかに注目させ、本時の活動内容を明確にする。その際、楽しい、おもしろいカーニバルを意識させる。</p> <p>自分が演奏する楽器は変えず、順番を変えて音の組み合わせの違いを感じ取らせるようにする。 の台に乗って鳴らし、順番をわかりやすくする。 (2)ではP22の8小節のみ楽器を鳴らし、音の組み合わせを比較させる。また、「活動の手順カード」に基づいてグループで活動方法を選択できるようにする。 自分の感じ方や思ったことを記録しておき、相談するときの材料とする。 言葉で表現するのに戸惑っている児童には、音楽ポケットから言葉を選び、自分の思いや考えを書く手立てとする。 試して行く中で、イメージに合うように楽器の鳴らし方を変えてみたり、音量を変化させたりして、さらに工夫できるようにする。 最後まで練習し、歌とリズムがうまく合ったグループには、「パッポン」の音も入れてみるよう、声をかける。 互いの打楽器の音色の特徴を感じ取って聴き合いながら、自分たちのイメージに合う音の組み合わせを工夫し、どのような演奏にするかについて、「 の音」として音や言葉を用いて伝えたり、ワークシートにまとめたりしている。 イー</p>

4 中間発表をする。	<p>どのようなイメージのカーニバルにしたのか，そのためにどのような工夫をしたのかを伝えさせる。</p> <p>「パップン」の音はグループごとに決めておく。次時の発表はさらにおもしろい音を入れて発表できるように声をかける。</p> <p>音がイメージに合っているかに注目して聴くように助言する。</p>
5 本時のまとめをする。	<p>次時のグループ発表会への意欲を高める。</p>

8 観点別評価の生かし方

【音楽的な感受や表現の工夫】	
評価規準	評価方法・Cと判断される状況への働きかけ・Aと判断するキーワード
<p>イー</p> <p>互いの打楽器の音色の特徴を感じ取って聴き合いながら，自分たちのイメージに合う音の組み合わせを工夫し，どのような演奏をするかについて，「の音」や言葉を用いて伝えたり，ワークシートにまとめたりしている。</p>	<p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分たちのイメージに合う音の組み合わせを工夫し，どのような演奏をするかについて，ワークシートの記録，及びグループ活動における観察から見取る。 <p>【Cと判断される状況への働きかけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 演奏するタイミングがずれてしまう児童には，誰の次に入るのか声をかけたり，入りやすいポジションに入るよう助言したりする。 自分の考えや願い，意図が書けない児童には，音楽ポケットの中の言葉を参考にするように助言する。 <p>【Aと判断するキーワード】</p> <p>音の特徴や音色の違いをとらえたより質の高い感想や意見 イメージに合った演奏の工夫（鳴らし方，音量，強弱など） 音色の特徴を感じ取ったことを基にした音の組み合わせを工夫した，グループでの積極的な発言</p>